

第9回中長期ロードマップ小委員会

2010年7月15日

枝廣淳子

スケジュールの関係上、どうしても出席できないため、ぜひご検討いただきたいことを書面にてお伝えすることをお許し下さい。

最近、エアコンやヒートポンプの省エネ効果や温暖化抑制効果に関する報道が散見されます。中長期ロードマップでは、これらが削減量の計算の重要な一部分を構成しているため、これらの疑義について、しっかりと確認・解明することが必須と思われます。

生活者にしても「高効率エアコンに買い替えを勧めているけど、本当にそれが温暖化対策になるの？」という疑問を払拭せずにお財布を開くことは難しく、政府が進める温暖化対策全般への不信感につながらないよう、きちんと対処することが大事だと思われます。

エアコンにまつわる次の3点について、関係者や専門家への調査等により、確認・解明およびロードマップでの扱いに関するロードマップ小委員会の見解の確立をお願いいたします。

(1) ヒートポンプの効率を測定する際の「爆風モード」の問題

エアコンやエコキュートなどヒートポンプに関して、その性能をあらわすCOPの表示を高くするために、メーカー側は通常では使用しないような手法を使うことで、試験の場でだけ高い省エネ効果を示す数値を出している？

(2) エアコンの使用時間の過大な想定の問題

7月7日に出された(独)産業技術総合研究所「ルームエアコンの使用実態に関する調査報告」では、「アンケートによる年間使用日数(居間)は、JIS規格の46%にとどまる(関東)」と報告されている。

(3) ヒートポンプの冷媒の漏れによる温暖化効果が大きいという問題

6月24日付の朝日新聞の報道などで、冷媒フロンの回収率の低さ、回収の難しさが指摘されており、「漏れる率が変わらず、ヒートポンプ機器が増え続ければ、2020年にはヒートポンプによって削減されると予測されている量に匹敵する量が漏れる(CO₂換算)」とのこと。

以上です。

どうぞよろしく願いいたします。